



CONTENTS

- 1頁・新型コロナ5類への移行と今後の展望
- 2頁・サイバーセキュリティ講習会を開催しました！
・エバーライフ壁面飾りのレクリエーション
- 3頁・たけのご農園 栽培体験
・リハビリデイサービスセンターひまわり奈良の力の源!!
- 4頁・医療療養病棟におけるリハビリの役割
・エバーライフ香芝における行事・催事・レクリエーションの取り組み
・グループホームの食と栄養 ～グループ内連携による改善～



第138号 ふれあいの里

〒632-0001 天理市中之庄町470 TEL.0743-65-1771(代)

発行責任者：鉄村 信治

編集：ふれあいの里広報委員会

<https://www.fureai-net.com/>

医療法人健和会 奈良東病院
院長 菊池 英亮

奈良東病院

新型コロナ5類への移行と今後の展望

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な大流行の発生から4回目の春を迎えています。政府は2023年1月27日の閣議で、5月8日以降、この感染症の取り扱いを感染症法上の2類相当から季節インフルエンザと同等の5類相当へと変更すると発表しました。COVID-19の感染状況が落ち着いてきている現状では、感染対策を緩和していくことも必要ですが、今後どのように対応してゆくのかが問われているように思います。

感染症法の類型とは、感染症を予防し流行を抑えるために、ウイルス・細菌感染症を5段階に分類したものです。1類にはエボラ出血熱、ペスト等の危険度が最も高い感染症が指定されています。COVID-19は今まで結核やSARSと同等の2類相当とされていましたが、無症状の感染者も感染を広げる可能性があるという特徴もあり、2021年2月に「新型インフルエンザ等感染症」という新たな分類になっています。5類感染症の扱いになるのに伴い、政府や都道府県の対策本部が廃止され、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」も廃止される見込みです。国では、5類移行後のコロナ医療体制についても段階的に対応を移行させていくとしています。が、医療費は高額薬剤を除いて原則自己負担となり、医

療提供体制も「幅広い医療機関による自律的な通常対応に段階的に移行」とすると発表しています。

しかし、医療の現場ではさまざまな問題があると思います。例えば、発熱などがあり感染の疑いがある場合、どこで検査や診療を行うのか、各県で指定している「発熱外来」はいずれ廃止されるとしても当面はどうするのか、さらに、感染症法上の「入院措置」がなくなるのに伴い、入院医療が必要な感染者に対しては、今までは保健所が入院先を調整していましたが、これからはどうするのかなど解決すべき問題が多くあります。現在、主流のオミクロン株はその毒性が低下しているとされていますが、高齢者や基礎疾患を有する方々にとってはまだまだ脅威であり、生命・健康を脅かすウイルスであることに変わりはありません。第8波のコロナ関連死亡者数が過去一番多かったこともあり、これからもCOVID-19の診療には多くの人的資源、材料、空間、時間が必要となります。したがって、5類移行後も、感染対策を一気に緩める方向に向かうのではなく、より現実に応じた感染防御対策に変容しつつも、再び感染拡大した場合には、状況に応じて柔軟に対策強化ができるよう準備をしておく必要があります。

5類になったとしても、ウイルス自体に変化はないので、医療・介護に携わっている私たちは、科学的な感染防御の意識を持ちそれを確実に実践してゆくことが求められていると思います。

健和会理念

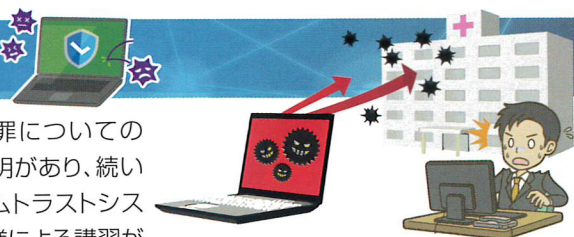
私達は、医療がサービス業であることを認識し、以下の目標を掲げる。

- 1・患者さん中心の医療・看護・介護
- 2・地域社会への貢献
- 3・研究心と向上心を持つ
- 4・和を尊ぶ

健和会基本方針

- 1・私たちふれあいの里の職員はいつも患者さんの意思を尊重し権利を遵守して、患者さん中心の医療、看護、介護を実践します。患者さんのADL(日常生活動作)改善とQOL(生活の質)向上のため、積極的にリハビリテーションに取り組みます。
- 2・私たちは、他の医療機関や地域の人々と連携して地域社会に貢献し、社会に開かれた施設を目指します。
- 3・私たちは患者さんから学ぶという初心を忘れず、より良い医療、看護、介護を提供できるように常に研鑽し探究する精神を持ち続けます。
- 4・私たちは力を合わせてチーム医療の遂行のために努力します。

サイバーセキュリティ講習会を開催しました!



「電子カルテが動かない」。2022年10月31日午前6時38分ごろ、大阪急性期・総合医療センターでは、入院患者を診る病棟担当の看護師などからこのような声が相次いだ。原因はランサムウェア(身代金要求型ウイルス)攻撃だった。電子カルテシステムをはじめとした院内システムのデータが暗号化されてしまった…

大阪急性期・総合医療センターは2022年10月、ランサムウェア攻撃の被害に遭った。電子カルテなどが暗号化され、外来診療や各種検査の停止を余儀なくされた。ランサムウェアの侵入口は給食委託事業者のVPN装置だった。攻撃者はパスワードの辞書攻撃などを駆使し、拡散を図ったとみられる。4日前のバックアップデータは残っていたが、復旧には2カ月を要した…

日本中の医療機関が震撼した病院に対するランサムウェアによるサイバー攻撃です。この事件の1年前に徳島県のつるぎ町立半田病院でも同様のことがありました。いずれも公立の病院ということもあり、それ相応のセキュリティは施されていたはずなのに本当に恐怖を感じます。

このことを受け、11月17日に天理警察署のサイバー犯罪担当課の方が来院され、当院のサイバー攻撃対策について聞き取り調査がありました。翌18日には清寿苑の上原次長と奈良県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課へ赴き、今後すぐにできる対策方法と、職員向けにサイバーセキュリティに関する意識の向上のための講習会の開催についてお話を伺ってきました。その結果、職員の意識向上が何よりの対策で、講習会を開催することで少しでも意識を高めてもらうことがサイバー犯罪対策として最も有効な手段のひとつであるという結論に達しました。

奈良県警本部様のご紹介で、数多くのサイバーセキュリティに関わってこられた、セコム様(セコムトラストシステムズ株式会社様)をご紹介いただき、複数回にわたる事前打ち合わせの後、2023年2月9日にサイバーセキュリティ講習会の実施に漕ぎ着けることができました。奈良県警察本部様・奈良東病院グループ共催、セコムトラストシステムズ様協力、できるだけ多くの職員に参加してもらうため、オンラインならびに一部対面のハイブリッド方式、という形で開催としました。はじめに奈良県警察本部様より最近のサイ

バー犯罪についての概要説明があり、続いてセコムトラストシステムズ様による講習が

始まりました。40分程度の講習でしたが、その内容はランサムウェアのことからシャドーIT、今自分ができること等多岐にわたり、あっという間に時間が過ぎたように感じました。

患者様や利用者様の命を守ることが私たちの使命ですが、デジタルシステムに障害が起こることですらいつも通りの医療・看護・介護が行えないとなると大変なことです。またその命と同じように大事な患者様・利用者様の個人情報もしっかり守っていかなければなりません。サイバー犯罪についてはその攻守はいたちごっこの様相を呈していますが、ハード面においては費用対効果も考えながら今できる最善の対策を、ソフト面においてはパソコンを扱う職員のサイバーセキュリティに対する意識の向上を続けていきたいと考えています。デジタル化は大きな恩恵を私たちにもたらしてくれていますが、その反面大きなリスクも伴っています。利便性のみを優先するとセキュリティはもろくなり患者様や利用者様の命を脅かすことにもつながりかねません。かといってセキュリティをガチガチにしようと思えば便利さは大きく削がれてしまいます。その間でバランスをとりながら今後もデジタルシステム等とおつきあいしていく必要性があります。そのとき場合によっては職員に不便さを強いることが出てくるかもしれないと思うと気が重くなります。

しかしながら今後も必要な部分はより一層のDXを。またその反面BCP的なことを視野に入れると一定の不便さは我慢してもらうことや、アナログ的な部分を少し残していく必要性も感じたりします。

これからも便利さと安全性の両立を考えて(デジタルについて本当のところ疎い私なのですが)、関係省庁や警察、業者様等と連携をとりながらグループ全体のデジタル化とそのセキュリティ強化に関わっていききたいと思います。

(奈良東病院 事務次長 森本 真司)

エバーライフ壁面飾りのレクリエーション



2021年1月、コロナ禍で人々の行動が大きく制限され、高齢者施設でのレクリエーションにも厳しい制限がある中、ベトナムから素敵な女性2人が技能実習生として、エバーライフ介護課に配属されました。

勉強熱心な2人は介護の仕事を学びながら、日本語はもちろん、日本文化も積極的に学んでいます。

来日当初は入居者様や職員とコミュニケーションをとることに苦労していましたが、持ち前の明るさとポジティブシンキングで、今では入居者様、職員から厚い信頼を得ています。

また、私達以上に手先が器用なため、レクリエーションの折り紙や細かい作業も難なくこなします。

エバーライフ介護棟では、レクリエーションの一つに、四季



お手本制作 / 技能実習生

折々の大きいサイズの壁面飾りを数か月かけて制作しています。入居者様には折り紙を折っていただいたり、色を塗っていただき、職員が手伝いながら完成させます。この制作でも技能実習生の二人は積極的に取り組んでくれ、斬新なデザインアイデアや、皆が楽しめる作業工程を提案してくれます。現在、2人は壁面飾り制作の中心として欠かせない存在になりました。

面会制限等が緩和されたので、制作した作品をご家族に見ていただく機会を設け、入居者様やご家族が喜んでいただけるよう取り組んでいます。

(エバーライフ 介護職員 竹本 陽子)

たけのご農園 栽培体験



今年度、たけのご保育園の園庭が生まれ変わり、新しい遊具や砂場ができました。

自然を活かした園庭にしたい、子ども達の食育活動に力を入れていきたいという想いから、畑を作り、たけのご農園が完成しました。

【苗植え】

農園は完成したものの、何を植えようか迷っていましたが、作物の栽培に精通している保育職員より季節に応じた野菜の提案があり、それを植えることにしました。

吉本統括部長にお手伝いいただき土づくりを行いました。大根、玉ねぎ、ブロッコリー、人参、いちごの苗や種を子どもたちと一緒に植えました。土の感触や種の小ささに興味を持っていました。

きんかん・なんてんの入居者さんにも見学に来ていただき、



交流の場を持つことが出来ました。

【水やり】

子どもたちで毎日水やりを行っています。人参の芽が寒さでなのか、なかなか出てこないのが心配になっていました。

【収穫】

3月、そろそろ収穫の時期。一回抜いてみよう、「スポッ!」。ものすごくかわいい大根が抜けました。人参にいたっては、根っこがオレンジがかっただけ。残念。

それでも、はじめての収穫に子どもたちはとても喜んでくれていました。今は新たにジャガイモとズッキーニを植えています。ポカポカと温かい季節。たけのご保育園は、ふれあいの里のみなさんにとって、憩いの場になればいいと思います。農作業やお花のお世話などが好きな入居者さん、子どもたちと関わっていただける方、お気軽に遊びにきてください。

(たけのご保育園 園長 峯 幸司)



リハビリデイサービスセンター ひまわり奈良の力の源!!



「今日も良い香りがしてるなあ～」
厨房からの匂いに食欲がかきたてられます。

リハビリデイサービスセンターひまわり奈良の管理者として、私は毎日、検食も兼ねて美味しい昼食を利用者さんと共にいただいています。

私のサラメシ(サラリーマンの昼食)を元に渉外では、ひまわり奈良のお食事をアピールしています。

まずは何と言っても、和食の料理人(ここが重要です)が作る絶品料理です。見た目の美しさはもちろんのこと、小鉢の種類が多く、季節感のある旬な物もできるだけ提供してくれています。未だに食べたことがないような品目があり驚くばかりです。

また、食事形態にも細心の対応をしています。



普通食、粥、かた軟飯、軟飯に、大きめ一口大、小さめ一口大、荒刻みなど厨房スタッフには頭が下がる思いです。

当施設には、様々な介護度の利用者さんがおられます。時には、言語聴覚士とも連携して、食事評価をしてもらっています。

「元気に毎日、いつまでも安全に美味しく食事をとっていただくこと」を心がけています。

「これを食べるだけでも、デイサービスセンターに来る価値あるなあ。」と利用者さんに言われしめる昼食。

私も利用者さん同様、毎日の楽しみとなっています。

(リハビリデイサービスセンターひまわり奈良 センター長 新田 克洋)



医療療養病棟におけるリハビリの役割



私達医療・療養病棟に勤めているセラピストは、リハビリを行い患者様の生活において楽しみとなる活動を提供させていただきたいと思い、日々模索しています。その中で今回は「アロマセラピー」について紹介させていただきます。

皆様は「アロマ」と聞いてどのような印象を抱くでしょうか。世間ではリラックスや楽しみとしての側面が強いですが、医療現場においてはアロマの持つ薬理作用に注目して臨床場面に取り入れられています。アウトカムとして呼吸数・心拍数の減少、疲労感の軽減、筋緊張の緩和、痛みの緩和、睡眠パターンの改善、感染リスクの軽減等、様々な効果が報告されています。

リハビリ開始時、イマイチやる気が出ない患者様に対しては交感神経を優位に働かせてくれるレモンを、疾患により脱力が困難な患者様に対しては筋緊張緩和に効果を発揮するローズマリーを、痰が多く呼吸が苦しい方に対しては去痰作用のあるユーカリを、昼夜逆転傾向で夜間眠れない方には睡眠誘導効果のあるラベンダーを使用したりと、患者様の状態に応じて適切なアロマを選択し提供しています。このように薬理作用と楽しみの両側面を目的として、リハビリに取り入れています。

また応用として非日常的環境の設定、五感刺激入力を目的としたスヌーズレンという活動を実施しています。スヌーズレンとは暗室の環境を作り出し、癒しの音楽を聴いたり、柔らかく穏やかな光を見たりしながら、セラピストがマッサージを行いリラックスしていただく、という活動です。ここでも嗅覚へのアプローチとして環境に合わせたアロマを使用し、患者様の癒しに繋がるよう支援を行っています。今後もアロマを活用して患者様の生活に潤いをもたらすことができるよう取り組んで参ります。

(リハビリテーション科 作業療法士 江木 純也)

エバーライフ香芝における行事・催事・レクリエーションの取り組み



エバーライフ香芝での行事・催事・レクリエーションの取り組みについて、ご紹介させていただきます。

まず、エバーライフ香芝の玄関から入りますと、真正面に、グリーンスタッフさんの工夫を凝らした玄関飾りが目に入ります。季節に応じて毎月変わり、

来所された方々並びに入居者様からご好評をいただいております。

つづいて、行事におきましては、これまで実施していた魚の解体ショーと寿司の提供を今年も感染対策に留意しながら、実施をしていく予定です。外出・外食される事の少ない、入居者様にとって、食の楽しさを提供できればと考えております。

また、各階フロアにて、レクリエーション担当の職員が提供する少人数単位のグループレクリエーションが実施されています。レクリエーションの内容としては、習字、カラオケ、テーブルホッケー、オセロ、将棋など、多岐にわたります。

加えて、アクティビティ担当委員より、季節に合わせたおやつ提供も



予定しており、コロナ禍で少なかったコミュニケーションの場を感染対策に留意しながら、進めていこうと考えております。

なお、今年度より、エバーライフ香芝のホームページのお知らせ欄に、レクリエーション活動の内容を掲載しています。それにより、提供しているレクリエーションを家族様が把握しやすくなるだろうと考えています。

今後の取り組み目標として、これまで行ってきたレクリエーションを家族様とも共有していき、入居して良かったと感じていただける施設を目指していこうと考えております。

(エバーライフ香芝 中野 哲史)

グループホームの食と栄養 ～ グループ内連携による改善 ～



グループホームは本来、入居者様自身が共同で生活をするのに難しい部分を介助して支援する目的の施設です。調理や配膳下膳の全てを委託することや調理専門職が調理だけを行うのではなく、基本は介護職員が行い入居者様にも関わってもらいます。

コロナ禍の前には近隣の方からいただいた「すいき」の調理法が私達職員には分からず、日常生活の全てに介助が必要な入居者様にお尋ねすると、ゆっくりとではあるものの手慣れた仕草でキレイに皮を剥いて、他の入

居者様も混じって私達は調理法を教わり、昔話に花が咲く楽しいひと時となりました。

コロナ禍になったことで、入居者様と一緒に調理することは難しくなり、栄養面を強化するためにも同じグループ内の大阪食品グループであるデリケアから調理済みおかずを週に数回、試験的な導入として利用を始めたところ、デリケアの方から管理栄養士による助言やグループホームからの要望など互いにプラスになる連携をしてみないかと提案され、定期的なZOOMミーティングを始めました。今まで出来ていなかった普段の献立の栄養計算や改善の助言を数々いただき、栄養に関する私達の意識も大きく変わることとなりました。

これこそが病院・介護・給食・学校など多業種のあるふれあいの里グループだから出来る繋がりと実感しています。これからもこの繋がりでより良いサービスを提供できるよう目指していきます。

(グループホームふれあい秋篠 館長 西村 玲子)

編集後記

今年は例年にない早さで桜のつぼみが成長し、3月の半ば過ぎには綺麗なピンク色の花が咲き始めました。多くの地域で昨年比5日～10日ほど早い開花だったようです。またここ数年は新型コロナウイルスの影響で制限の連続でしたが、ようやく少しずつ緩和され始めました。3月13日以降、マスクの着用は個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断が基本となりましたが、厚生労働省からの通知では病院・高齢者施設などを訪問する際はマスクの着用が推奨されています。前述したものは相反する内容となりますが、どうかご協力をお願いいたします。

これからは暖かい日が増える反面、朝夕の寒暖差が大きい日も増えてまいります。体調に気をつけながら毎日をお過ごしください。

(広報委員長 橋本 重之)

